

---

# 魔法老婆 うめこ マギカ

まどろみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法老婆 うめこ マギカ

### 【Nコード】

N9675Z

### 【作者名】

まどろみ

### 【あらすじ】

魔法少女ばかりにスポットが当てられ、魔法おっさん、魔法老婆、魔法オカマ等が忘れられている世の中。魔法おっさん、魔法オカマは書けないけど、魔法老婆だったら書ける！！魔法老婆の魅力を書こうではないか。っていう感じのお話です。

キユウベえ、頑張る(前書き)

勢いで書いた。

反省はしているが、後悔はしていない。

## キュウベえ、頑張る

「僕と契約して魔法少女に……」

キュウベえが途中で言葉を止めてしまったのも仕方ない。

皺々の手。真っ白な髪。

どこをどう見ても、少女と言うには無理があった。

どれほど、お世辞を駆使したとしても、キュウベえのもつ話術を駆使したとしても、彼女を少女と称する事が出来なかったのだ。

一体、上は何を考えているんだろうか？

エントロピー云々のためには、少女という感情の上下が激しいエネルギー源のほうが効率的なのだ。

目の前を見してみる。

老婆だ。

「……僕と契約して、魔法老婆になってよ」

さて、ここで一つ問題が発生するのだ。

もし仮にだ。

仮にこの契約がなったとしよう。

魔法少女のコスチュームというのは、総じて可愛らしく、ちょっとばかり露出度が高いものが多い。

それをだ。

それを、彼女、山田 梅子に着せるといふ暴挙は大きすぎる問題である。

杖を持ち、「リリカル むにゃむにゃ」などと、もし唱えたら暴動が起きる。

キユウベえは感情が無いから大丈夫……なのだろうか？  
好奇心が湧く議題だが、リスクが高すぎる。

「え〜と、聞こえてる？」

僕と契約して、魔法老婆になってよ」

どうやら、キユウベえは吹っ切れたらしい。  
たくましく、勧誘を続けているのだ。

「ああ、貴子さん。

今日はいい天気ですねえ」

「う、うん、いい天気だね。

あと、僕貴子さん？じゃなくてキユウベえっていうんだ」

「そうですねえ、貴子さん

お昼まだなんですよ」

ちなみに、もう夕方である。

「いや、僕は貴子さんじゃなくて」

「いい天気ですねえ」

「う、うん、いい天気だね」

ある意味キュウベえにとつての天敵とっていい存在だった。  
キュウベえが得意とするのは、話術や自分には分かりもしない感情  
とやらに訴える物なのだ。

それが、全く出来ないのだ。

「じゃ、貴子さん

料理お願いしますね」

「……え？」

「ワケが分からないよ。

本当にワケがわからないよ。」

本当であれば、コレをお願いとし、梅子さんを魔法老婆にしてしま  
うつもりだったのだ。

だが、いかんせん幾つもの問題がある。

1つ、ただのお願いであり、代価として魔法老婆になると明確に言  
っていない。

2つ、会話が成立していない。

3つ、そもそも、キュウベえと貴子さんなる人を間違えている。  
4つ、あれ？これ無理じゃね？

である。

そのお願いなど、無視すればいいのだが、料理を作らなかった事によつて、この老人が飢えて死んでしまうという可能性が少なからずあるのだ。

この豊かな国では、ほとんど無いとはいえ、可能性が0というわけではない。

魔法老婆になるまえに、死なれては困るのだ。

それで、適当な物でも渡そうかとしたのだが、それにより身体に変調をきたす可能性も考慮しなくてはならない。

なにせ相手はお年寄り、食事には気を使わなくてはならない。

餅等を喉に詰まらせ無くなる、というのも非常に多いのだ。

そうになると、出来るだけ健康的な料理、つまり手作りのものとなつて来る。

身体が見えない、というよりそもそも4本足であるキュウベえにとつてコレほど難易度の高い問題を取り扱った事などなかったのだ。

案外何とかなつたが……

だが、キュウベえの戦いはまだまだ始まつたばかり。

たかが食事など四天王の中でも最弱。

浴槽、トイレ、洗濯。が待っているのだ。

頑張れ、キユウベえ。  
負けるな、キユウベえ。

果たして、キユウベえの営業は成功するのだろうか？

「貴子さんや、いい天気ですねえ」

「う、うん、いい天気だね」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9675z/>

---

魔法老婆 うめこ マギカ

2011年12月30日02時46分発行